

ふるさと創造会議・加西市公共交通について



原田 久夫 議員
(21 政会)

問 加西市が求めるふるさと創造会議について。

答 市内全地区にふるさと創造会議が立ち上がり、設立後5年目を迎えるところもありますが、これからは地域課題に目を向けた取り組みについて支援していくことを考えています。

またその先には、自らの地域でできることは地域で解決していき、行政が取り組むべき課題と地域で取り組む課題を話し合いな

がら、将来的には法人格を得るとともに、行政事務を担っていただけるような組織づくりのための支援を行っていきたいと考えています。

問 南部地域への地域主体型公共交通計画について。

答 加西市地域公共交通網形成計画で定める、目指すべき公共交通ネットワークの一つとして位置付け、地域での導入検討を推進していくことを考えています。

今後、高齢化の進展により交通弱者がますます増加するため、導入に向け検討していただける地域がふえると考えています。

検討される場合、地域主体型交通導入の手引きに関する説明やアンケートの実施、集約についてのアドバイスなど、導入に向けた支

援を考えています。

そして運行路線や運行方法、運転者の確保、地域内の体制づくりなど、地域の実情に合う持続可能な交通とするため、公共交通活性化協議会における専門家の意見を踏まえた相談支援を考えています。

さらに、地域主体型交通を実施する際には、車両の導入、車検費用など、維持管理に関する財政的な支援、また安全運転に関する支援なども考えています。

加西市の南部地区については、北条鉄道や路線バスなど、既存の公共交通が存在する地域となりますので、相互の役割分担をしっかりと図りながら、自動車を使用できない方の移動ニーズに応えられるような、地域主体型交通の導入の推進を図っていきたいと考えています。

安全・安心の町づくりについて－認知症高齢者の対応－



土本 昌幸 議員
(公明党)

問 認知症高齢者のスマホを活用した検索に関し、システムの状況と今後の計画についてお聞きします。

答 平成30年11月4日に通信系企業との共同の取り組みとして、北条地区において、ふるさと創造会議を初め地域の方々や加西市老人クラブ連合会、小学校PTA等の協力を得て、高齢者や子供の行方不明者検索時間の短縮、早期発見に向けた検索システムの実証実験を実施しました。内

容は、近距離無線通信の発信機を持った行方不明者役の高齢者や子供を、協力者がスマホに「見守り支援アプリ」をインストールし、探知した情報から行方不明者を探し、通報するというものです。5名を各ブロックに配置し、2時間15分～20分を目標に探し出し、想定よりも1時間程度早い約1時間15分で、全てのブロックにおいて探し出すことができました。

問 GPSを使用したものは費用が高額になると聞かれますが、このシステムは低額であり、ぜひとも進めていただきたい。また、他市との連携により範囲が広がり、大きな成果が期待できると考えるが、その方向性をお聞きします。

答 実証実験に参加していただいた方の評価もよかったことから、市民の方々に協力いた

くための検索ネットワークをつくり、検索情報を発信するアプリの提供を行い、平成31年度中に実用化できるように進めていきたいと考えます。また、この結果を他の市町にも発信し、このシステムの利点を生かして、より多くの市町で同様のシステムを確立していただくことで、行方不明先が遠方、他市町に及んだ場合でも対応できるように進めていきたいと考えます。

要望 皆さんが協力して行うところに価値があり、是非とも取り組みを進めていただきたい。

■その他の質問項目

- ・新年号及び消費税10%対応について
- ・観光振興について
- ・鶯野飛行場跡地の活用条例の制定について